

【心理学】カリキュラムマップ

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		
【心理学】ディプロマポリシー	1. 知識・理解	①心について科学的、実証的に検討する方法を身につけ、人の心理と行動に関する法則性を客観的に理解する。 ②個人差・文化差といった多様性および人と環境との相互作用について心理学的に理解する。												
	2. 汎用的能力	③心理に関する多様な情報を収集・分析し、問題を発見・解決する能力を身につける。 ④コミュニケーション力を高め、社会の中での実践的な関係形成能力(リエゾン力)を身につける。												
	3. 態度・志向性	⑤建学の精神である「真実心」を理解し、他者に共感して、社会に貢献できる。 ⑥心理学の知識を社会に援用し、協調・協働してチームワークを構築したり、他者を動員して目標の実現をはかるリーダーシップを適切に発揮したりできる。 ⑦自分の目標を明確に持ち、意欲的に行動するとともに、生涯を通して自らを高めることができる。												
	4. 統合的な学習経験と創造的思考力	⑧心理学の学習を通して獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らのキャリアに活かす力を養う。 ⑨心理学に関する高度な知識と技能を活かして、他の専門職と連携をはかり、対人援助の専門家として社会貢献する能力を身につける。												
心理学概論	様々な心理学分野の基礎知識を習得し、人の「心」について考察する知識と視点を習得する	1. 知覚のメカニズムについて理解し、人間の知覚の不思議現象について体験を交えて考察する 2. 青年期における孤独と友情について理解し、自己のアイデンティティについて考える 3. 記憶について認知心理学の立場から理解し、記憶の人間生活における役割について学習する	30 40 30	◎ ○ ◎	○ ◎ ○									
社会心理学入門	社会心理学とそのアプローチ法について初歩的知識を習得する	1. 対人魅力・化粧行動・自己に関する研究の基礎知識を修得できる 2. 実証的データに基づいて人間の心理や行動を理解できる 3. 社会心理学のアプローチ法を理解できる	30 40 30	◎ ◎ ◎	○ ○ ○									
発達心理学入門	発達心理学の基礎的な知識を習得し、考え方を学ぶ	1. 受胎から死に至るまでの生涯にわたる発達の概略を理解する 2. 胎児期から幼児期にかけての認知的発達、社会的発達、自我発達を理解する 3. 児童期から老年期にかけて各時期の発達課題を理解する	30 40 30	◎ ◎ ◎						○				
臨床心理学入門	臨床心理学の簡単な歴史とその背景とともに、身近な話題を通して心の構造やその働きを理解する	1. 臨床心理学の簡単な歴史とその背景を理解する 2. 臨床心理学の目的や臨床臨牀の知見に触れ、心の構造の理解を深める 3. 精神発達理論における各年代の発達課題とその危機を理解する	30 40 30		◎ ◎ ◎						○			
社会と統計	情報化した社会の動向を知り理解するためには、様々な統計データを読み解くリテラシーが必要である。社会と統計の授業では、国勢調査、学術調査、世論調査などの様々な実際の調査データを用いて、社会調査の基本的事項と意義について学ぶ。また、社会調査の歴史や実際に調査を行う際に注意すべき点についても学び、社会と統計との関わりについて理解を深める	1. 社会調査の計画・実施方法を理解する 2. 社会調査の調査票を作成できるようになる 3. 社会調査データの集計や簡単な統計分析ができる	30 30 40			◎ ◎ ◎							◎	
心理学研究法 I	実証的研究を行うための基本的技術を習得する	1. 観察法に関連する基礎概念と実施プロセスについて理解できる 2. 調査的面接法に関連する基礎概念と実施プロセスについて理解できる 3. フィールドワークに関連する基礎概念と実施プロセスについて理解できる	40 30 30		○ ○ ○	◎ ◎ ◎								
環境心理学	人と環境の相互作用について理解する	1. 嫌悪環境における人に心や行動の変化とその対応について理解する 2. 国際化の波が押し寄せる中、異文化適応や地球市民といった国際社会での対応について理解する 3. 地球温暖化などの時事問題に触れ、人間の未来への正と負の遺産について考察し、その対策を理解する	40 40 20				◎ ◎ ◎							
社会ゲーミング・シミュレーション	社会や環境をシミュレートしたゲームを実施しながら、現実の人間社会の中で起こりうる葛藤や矛盾を疑似体験し、人が共生することの意味を実践的に学習する	1. よりよい共生社会を構築する方略を自ら考える力を養う 2. 社会の複雑性を理解し、様々な社会的立場と心理を多角的視点から考察する 3. 葛藤と解決の方略を体験的に学習する	30 40 30				○ ◎ ◎	◎ ○						
消費者心理学	消費者行動の理論とそのマーケティングへの応用について学ぶ、とくに消費者情報処理のフレームのなかで、購買意思決定過程、消費者個人の心理的機能、社会的文化的状況下における消費者行動について理解を深めるとともに、そのインプリケーションについて検討する	1. 消費者行動と購買意思決定過程モデルについて理解する 2. 消費者の満足・不満足について、購買意思決定過程モデルから検討することができる 3. 社会的文化的状況下において集団と個人から影響をうける消費者行動について理解する	40 30 30	◎ ◎ ◎										
京都文化心理学	私たちの学びの場である「京都」をテーマとして、京都らしさ、歴史、文化の観点から心理学的に理解することを試みる。	1. 「京都らしさ」を心理学的に分析し、和菓子作りを通じて「京都らしさ」を体験的に理解する。 2. 日常生活における「癒やし」について心理学的視点から学び、匂い袋作りを通じて「癒やし」と香りの関係を体験的に理解する。 3. 「京都」の「文化」を「癒やし」の観点から考察し、「京都」の「文化」スポットを訪れて、「癒やし」を体験しつつ「京都」に対する理解を深める。	30 30 40		◎ ◎ ◎	○ ○ ◎								
健康科学概論	人の生涯にわたる健康づくりを支援する総合科学としての「健康科学」について、「栄養」、「看護」、「社会福祉」、「リハビリテーション」、「心理」の立場から、それぞれの分野の基礎的内容やトピックスについて学び、専門科目への学習意欲を喚起するとともに、チーム医療を進めて行く上での礎を築く	1. 心身の健康維持・増進の大切さを理解する 2. 心身の健康維持・増進を担う専門職の役割を理解する 3. 他職種との連携を通して心理専門職の特色を理解する	30 30 40	◎ ○ ◎									◎ ◎	
専門職の連携(基礎)	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種を理解する	1. 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する 2. 地域における包括的なヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する 3. 他職種の視点を通して、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる	30 30 40									◎ ◎ ○		
医学知識	高齢者、障害者等を支援、援助する際に必要な保健・医療の知識を習得し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長や発達、日常生活との関係をも踏まえて理解する	1. 高齢者、障害者の基礎的な身体的、精神的な健康について理解する 2. 医学と社会福祉の連携について理解する 3. 医療機関と協力機関の役割について理解する	30 40 30	◎ ◎ ◎				◎						
生理心理学	私たちの行動や「こころ」のはたらきや、どのような生理学的過程によって支えられて、生み出されているのかを理解することを目的とする	1. 人間の行動と身体の生理的変化の関係について理解を深めることができる 2. 心的過程の変化に伴う生理的変化の測定について理解する 3. 生理心理学の学びを日常生活や他の心理学分野の内容と関連させて理解を深めることができる	30 40 30	◎ ◎ ◎	○ ○ ○									

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の 学修活動の総和)全体を100とし たときの配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ○:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ◎:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		
神経心理学	私たちの行動や「こころ」のはたらきが、脳のような活動によって生み出されているのかを、行動神経科学の立場から理解することを目的とする	1. 神経系の構造と情報伝達について理解する	40	◎	○									
		2. 感覚系の一般的性質と各感覚器官のしくみについて理解する	30	◎	○									
		3. 体性感覚、筋運動のしくみ、随意運動のしくみ、および自律神経系について理解する	30	◎	○									
認知心理学	人間が持つさまざまな認知能力のはたらきやそのしくみについて、認知心理学において明らかにされた知見から検討し、日常生活を無意識に支える知的活動、心の豊かさや質、知覚を感じさせる「健康な心」がどのように成り立っているのかを考える	1. 人間が受け取る情報と人間が生み出す行動との関係を情報処理、知識の運用と見なし、心のはたらきを明らかにする認知心理学的アプローチを理解する	40	◎	○									
		2. 健康な人を対象とした心理学実験による知見から、人間の情報処理過程と知識の運用について理解する	30	◎	○									
		3. 脳損傷患者や発達障害児の臨床例に基づく神経心理学・認知神経科学的知見から、人間の認知プロセスについて理解する	30	○	◎									
学習心理学	心理学において「経験によって生じる比較的永続的な行動の変化」であるとされる学習について、学校での教科の学習に止まらず、日常生活の様々な場面で適用についても、学習心理学がこれまでに蓄積してきた知見に基づき学ぶ	1. 単一刺激に関する学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、強化スケジュールに関する基礎概念と理論を理解する	40	◎	○									
		2. 刺激性制御、時空間学習、観察学習に関する基礎概念と理論を理解する	30	◎	○									
		3. 概念形成と比較認知に関する基礎概念と理論を理解する	30	◎	○									
スポーツ心理学	スポーツに関わる人々の心理について理解する	1. スポーツに関わる人の心理について理解する	30	◎										
		2. スポーツに関わるメンタルトレーニングについて理解する	35									◎		
		3. スポーツを愛好する心を育む	35										◎	
臨床心理学	臨床心理学の基本的な概念や考え方について、成り立ちや背景、社会や家族、症状形成、心身の相関、発達と個人差という観点から理解を進める	1. 臨床心理学の理論構成と実践の両面における「無意識」概念の重要性について学ぶ	30									◎	○	
		2. ライフサイクルの観点から、それぞれの心理的課題とその援助について理解する	40										◎	
		3. 症状形成について心理力動的観点から理解する	30									○	◎	
心理療法学	心理的援助における様々な技法についての基礎知識を習得する	1. 心理療法の全体の基本的な知識を理解する	40									◎	○	
		2. 言語的心理療法の理論と技法の基礎知識を理解する	30									◎	○	
		3. 非言語的心理療法の理論と技法の基礎知識を理解する	30									◎	○	
発達心理学	社会文化的視点から人間の発達について理解する	1. 発達を支える社会文化的基盤について理解する	40	○	◎									
		2. 生涯の各時期における発達の問題を理解する	30	◎	○									
		3. 現代社会の人間関係や文化の特徴を把握し、その中で発達について理解する	30									○	◎	
発達障害の心理学	障害児(者)が、様々な障害によってもたらされる生きづらさを、いかによりよく生きるのか、個性豊かに社会的自立に向けて、家族をはじめとして周囲の人々の支えの中で、いかに発達の可能性と将来の希望を持ち続けるかについて理解する	1. 障害の生物学的側面、心理学的側面、社会学的側面を理解する	30									○	◎	
		2. 障害の原因、診断、治療の基礎知識を身につける	40									○	◎	
		3. 各発達時期から見た障害および各障害における心理について理解する	30									○	◎	
子どもの心理臨床	現代の社会状況を背景にして、子どもたちの心がどのような状況におかれているか、子どもたちのこころに寄り添い、支え育む心理臨床の視点を習得する	1. 家庭の教育力の低下と子どもの心の状況の関係について理解する	30		○							◎		
		2. 社会の歪み、ひずみ、社会病理と子どもの心の状況の関係について理解する	40									◎	○	
		3. 現代の学校における子どもの状況を理解する	30									○	◎	
心理アセスメント実習Ⅰ	心理アセスメントの基礎やグループワークの実際を体験的に理解する	1. 心理検査を通して心理アセスメントの実際を体験的に理解する	40									◎	○	
		2. グループの中で他者の存在が自己理解を促進することを理解する	30				◎					○		
		3. 箱庭や描画など多彩な表現の方法を知る	30									◎	○	
心理アセスメント実習Ⅱ	体験した技法や心理テストをディスカッションや個別指導によって寄り深く理解し、心理査定全体における意義を把握する	1. 心理テストの結果の分析方法を習得する	40									◎	○	
		2. 描画法・表現療法においては気づきや発見を意識化し共有する	30									◎	○	
		3. 心理アセスメントおよび表現療法全般についての理解と洞察を深める	30									◎	○	
人間関係の心理	人間関係の心理の授業では、自己開示と自己呈示などの人間関係に関する心理学の基礎理論を学んだうえで、対人コミュニケーションの特質について理解を深め、さらには、ソーシャルメディアの発展など現在社会に特有な人間関係の問題を検討し、人間存在そのものの理解を深める	1. 人間関係に関する心理学の基礎理論を理解する	30	○			◎							
		2. 対人コミュニケーションの特質について理解する	40	○			◎							
		3. 身近な人間関係や自己と社会とのつながりについて理解できる	30		○		◎							
児童心理学	児童期の心理発達と学校生活における諸問題を理解できる	1. 児童期の認識能力、自己認識、社会性の発達の概要について理解できる	40	◎	○									
		2. 学校生活の中での子どもの発達を理解できる	30				◎							
		3. 現代社会における仲間関係や学校文化の問題を理解できる	30					◎						
青年心理学	青年期の発達と心理及び青年期特有の問題を理解できる	1. 青年心理学に関する主要な理論を理解できる	40	◎										
		2. 青年期の身体的変化、知的発達、自我発達、情緒、対人関係について理解できる	30		○		◎							
		3. 現代における青年期特有の問題について理解し、自己理解を深める	30					◎						
家族心理学	「家族」の発達段階における心理学的危機と課題、個人の心理的発達との関係、家族療法的アプローチ、日本の家族の変化などについて理解する	1. 文化・時代・個人によって家族イメージが異なることを理解する	30		◎		○							
		2. 家族の集団としての特徴や個人の心理的発達との関係など、「家族」の心理学的特徴について学ぶ	40		○		◎							
		3. 「家族」の歴史的变化について理解する	30			◎								
教育心理学	教育現場のさまざまな問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察・理解する	1. 知能の意味と創造性との関連性について理解する	30		◎									
		2. 学習の動機づけに関する理論を理解し、やる気をおこさせる手法について考察する	40					◎						
		3. 発達障害など学級における問題を探り、その指導方法の注意点と課題について理解する	30						◎					
パーソナリティ心理学	個々人のパーソナリティの違い(遺伝的要因、文化や環境的要因の影響等)、人の一生のなかでのパーソナリティの発達、そして、パーソナリティの病理といった疑問を解き明かすために、パーソナリティについての様々な基礎理論を学習した上で、ライフサイクルを通してパーソナリティの発達とその問題について考える	1. パーソナリティに関する心理学の基礎概念や心理学的考え方を学び理解する	40		◎									
		2. 人の一生のなかでのパーソナリティの発達とパーソナリティの病理について基礎理論を学習し、理解する	30				◎							
		3. 人格の多様性、多面性を理解し、自己理解や他者理解を深める	30			◎								

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の 学修活動の総和) 全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		
比較行動学Ⅰ	現存する種の認知を比較し、その相違点と当該種が現在置かれている状況と照らし合わせて、当該種の「ころ」が進化した要因を推測する比較行動学の概要を理解する	1. 種による感覚・知覚の相違について理解する 2. 種による記憶・概念形成の相違について理解する 3. 種による推論とメタ認知の相違について理解する	30 30 40	◎ ◎ ◎										
比較行動学Ⅱ	現存する種の認知を比較し、その相違点と当該種が現在置かれている状況と照らし合わせて、当該種の「ころ」が進化した要因を推測する比較行動学の概要を理解できる	1. 種による社会的認知の相違について理解できる 2. 種によるコミュニケーションの相違について理解できる 3. 種による社会的知性の相違について理解できる	30 40 30	○ ◎ ◎ ◎										
子どもと人間関係	乳幼児期の子どもたちが周りの人との関係を広げていく進路から基本的な信頼感の確立、自我の形成、仲間との関係、社会とのつながり、遊びやいざこざの意味や役割等を学び、子どもに対する援助の方法や人間関係の理解をめざす。	1. 領域「人間関係」の基本的内容を理解する 2. 乳幼児期の人との関わりや発達過程を理解し、ふさわしい援助や環境構成について考えることができる 3. 実技を通して、子どもの人間関係を育む力を養う	40 30 30	◎ ◎ ◎		○ ◎ ◎							○	
子どもとことば	領域「言葉」について学ぶ、子どもが言葉を獲得し豊かな表現力を身につけていく過程を理解すること、絵本や昔話、お話等のもつ文化的意義を認識しそれらを子どもたちに与える方法の習得をめざす。	1. 領域「言葉」の基本的内容を理解する 2. 乳幼児のことばの発達過程を理解し、子どものことばの発達を育む保育内容について具体的に学ぶ 3. 子どもの言葉の発達を促すスキルや方法を習得する	40 30 30	◎ ◎ ◎		○ ◎ ◎								
社会心理学	「人と人の結びつき、人と社会の関わり」について社会心理学の知識と理論を習得する	1. 自己概念と自己評価、自己の意識化による行動変容など社会行動における自己の機能について理解する 2. ステレオタイプや偏見など対人認知のメカニズムを理解し、その問題点を考察する 3. 対人魅力や攻撃と援助についての社会心理学の知識や実証的データからの理論を理解する	30 30 40				○ ◎ ◎				◎			
コミュニティ心理学	少子高齢化社会における豊かな「まちづくり」活動をテーマに取り上げ、身近な活動事例を通してコミュニティ心理学の概念および理論について学ぶ	1. コミュニティ心理学の基本概念と理論について理解する 2. 中心市街地活性化の取り組みについて、国際比較に基づき理解する 3. 身近な景観問題を手掛かりに、まちづくり活動について理解する	40 30 30							◎ ◎ ◎				
グループ・ダイナミクス	人が集団を構成した時、個人とは異なる集団ゆえに派生する力動によって行動するようになる。このように集団ゆえの力学的特性をグループ・ダイナミクスとよぶ。本講義では多角的視点からこのグループ・ダイナミクスについて考察する	1. 組織や役割構造における集団圧力について理解する 2. 世論や流行現象に見られる大衆社会現象について考察する 3. 集団や群衆の中の人間行動について科学的に分析し、個人が如何にそれらに影響され、かつ影響を与えるのかについて考察する	40 20 40				○ ◎ ◎							
犯罪心理学	犯罪の原因を、社会的要因・個人的要因に分けて概説する。緊張理論・下位文化理論・統制理論の立場と、代表的理論について述べる。個人的要因として、脳機能や遺伝などの生物学的要因・知能や性格などのパーソナリティ要因を取り上げる。暴力犯罪や性犯罪などの罪種ごとに原因と犯罪者特性の検討を試みる	1. 犯罪原因の理論を理解できる 2. 実証的データに基づいて、犯罪行動・犯罪心理・犯罪者特性を理解できる 3. 罪種ごとに、犯罪の原因と犯罪者特性を理解できる	30 40 30	○ ○ ○					◎ ◎ ◎					
産業・組織心理学	社会で人間が必ず所属している組織とはいったいどのようなもので、組織の中で人々がどのように行動するのか、また産業界で「働く」ということは人々にとってどのような意味を持ち、また「働く」としてどのような心理的問題が生じているのか等の、組織や産業に関わる人間の心理や行動についての基礎を学ぶ	1. 心理学における組織研究の歴史について理解する 2. 職場におけるモチベーションとメンタルヘルスに関する基礎理論について理解する 3. 職場におけるリーダーシップと人間関係について関する理論を理解する	10 40 50	○ ◎ ◎				○ ◎ ◎					○	
マーケティング心理学	マーケティングは、市場環境を考慮して、どのような商品やサービスを、どのような消費者に、どのような方法で売ったらいよいかを実践していくための経営技法である。本授業では、企業で商品の企画・開発、販売管理等のマーケティング実務を行なう上で必要な基礎知識の修得を目的とする	1. 現代のマーケティング・マネジメントで必要とされる理念について理解する 2. 市場需要の探索と事業領域の選択について基礎理論を踏まえて理解できる 3. 広告戦略と販売促進戦略の基礎理論について理解できる	40 30 30						◎ ◎ ◎					
社会とジェンダー	日本と欧米の社会を比較しながら、それぞれの社会におけるジェンダーの意味を考察する。現代社会という急激に変化する社会において、ジェンダーはどのような意味を持つようになるか、授業の場で積極的にディスカッションをしながら、理解を深める。セクシュアル・ハラスメント、女性と男性の労働条件に関する問題、女性の識字能力、女子教育、選挙権、政府内での女性に関すること等に焦点を当てて国際視点からジェンダー問題を学ぶ	1. 現代社会という急激に変化する社会における、ジェンダーの意味を理解する 2. 国際視点からジェンダー問題を理解する 3. 労働条件、女性の識字能力、女子教育、選挙権、政府内での女性の役割など、具体的なジェンダー問題について理解する	30 30 40	○ ◎ ○ ◎										
現代社会と福祉Ⅰ	福祉制度の意義・理念、福祉の原理をめぐる理論・哲学、福祉政策におけるニーズ・資源について理解できる	1. 現代社会における福祉制度と福祉政策の関係を説明できる 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について説明できる 3. 福祉制度の発達過程について説明できる	40 40 20						○ ◎ ◎ ◎					
現代社会と福祉Ⅱ	福祉政策の構成要素、福祉政策と関連政策、福祉政策と相談援助活動、福祉政策の課題について理解できる	1. 福祉政策におけるニーズと資源の関係を説明できる 2. 福祉政策の構成要素について説明できる 3. 福祉政策と相談援助活動の関係について説明できる	40 40 20						○ ◎ ◎ ◎					
児童・家庭福祉	現代社会の子どもの生活実態を、子どもと子どもをとり巻く環境の視点からとらえて把握する。また、そのなかで生じている社会問題や生活上の困難について、児童・家庭福祉領域においてどのような理念・考え方のもと、どのような支援がなされているのかについて学んでいく	1. 現代社会における子どもの生活実態を知り、その背景を多面的に理解する 2. 子ども家庭福祉の基盤となる理念・価値を学ぶ 3. 子ども家庭福祉における具体的な制度・サービスなどを知り、それらの活用と子どもや家庭への支援について検討する	30 30 40		○					◎ ◎ ◎				
家庭支援論	今日、保育者と保護者、園と家庭との連携の必要性が高まってきており、「子育て支援」「家族援助」が保育の中心的課題となってきた。日々の保育場面における子どもへの対応とともに、保育者として必要とされる家族への援助にはどのようなことが求められているのか具体的な援助の方法や課題について考える。	1. 家庭の意義とその機能について理解する 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する 3. 子育て家庭の支援体制について理解する	40 40 20			◎			○ ◎ ◎ ◎					
心理学研究法Ⅱ	実証的研究を行うための基本的技術を習得する	1. 質問紙調査法に関連する基礎概念と実施プロセスについて理解できる 2. 実験法に関連する基礎概念と実施プロセスについて理解できる 3. 量的データの分析に必要な基礎概念について理解し、分析結果を読み取ることができる	40 30 30				◎ ◎ ◎							

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		
心理学実験演習Ⅰ	心理学の実験を体験し、心理学の方法論を習得すると同時にレポートを作成を通じて学術論文作成の基礎を身につける	1. 目撃者の証言などの実験を通じ、記憶の基礎知識と体制化について体験し、理解する	35			◎								
		2. ストループ課題などの実験を通じ、知覚のメカニズムについて体験し、理解する	35			◎								
		3. 印象形成の実験により、他者の印象を作るプロセスにおける理論を体験し、理解する	30			◎								
心理学実験演習Ⅱ	心理学の実験を体験し、心理学の方法論を習得すると同時にレポートを作成を通じて学術論文作成の基礎を身につける	1. 目撃者の証言などの実験を通じ、記憶の基礎知識と体制化について体験し、理解する	35			◎								
		2. ストループ課題などの実験を通じ、知覚のメカニズムについて体験し、理解する	35			◎								
		3. 印象形成の実験により、他者の印象を作るプロセスにおける理論を体験し、理解する	30			◎								
心理学データ解析Ⅰ	量的な心理学データの分析法としての統計的解析法の理論と実際について学習し、卒業論文で必要となるデータ解析を正確に実行するための技術を習得する	1. 統計解析パッケージプログラムのSPSSでデータ入力やデータ変換といったの基本操作を行うことができる	40			◎								
		2. SPSSを用いて、記述統計量(代表値、散布度、度数分布)を出力し、グラフの作成を行うことができる	30			◎								
		3. SPSSを用いて推測統計(仮説検定の論理、母数の推定)、相関分析、カイニ乗検定を行うことができる	30			◎								
心理学データ解析Ⅱ	量的な心理学データの分析法としての統計的解析法の理論と実際について学習し、卒業論文で必要となるデータ解析を正確に実行するための技術を習得する	1. 対応のないデータのt検定、対応のあるデータのt検定、1サンプルのt検定を行うことができる	40			◎								
		2. 一要因分散分析と二要因分散分析を行うことができる	30			◎								
		3. 反復測定データの分散分析を行うことができる	30			◎								
精神疾患とその治療Ⅰ	精神医学および精神療法の歴史を理解した上で、精神保健福祉士として必要な基礎的知識を学ぶ	1. 精神医学の歴史、社会的構造について理解する	30									◎	○	
		2. 精神医学と社会福祉援助の連携と実際について理解する	30									◎	○	
		3. 精神病院と精神保健福祉施設の関係について理解する	40									◎	○	
精神疾患とその治療Ⅱ	精神医学の概念、脳および神経の生理・解剖の基礎、心理検査や身体検査を含む診断方法、代表的な精神障害、身体的療法・薬物療法等の治療方法をまず理解させる。さらに現在の中心的治療の場である病院精神医療、精神科救急医療、さらにこれからの精神医療としての地域精神医療について学ぶ	1. 精神科治療の基礎的理解をする	30									◎	○	
		2. 入院、通院、服薬の効果とその支援の在り方について理解する	30									◎	○	
		3. 精神科救急の現状について理解する	40									◎	○	
メンタルヘルス論	職場におけるメンタルヘルスに関する基礎知識を習得し、心の病理に対する偏見を払拭し理解を深める	1. ストレスとストレス対処に関する理論を理解できる	40	◎										
		2. 職場不応と復職支援についての知識を習得する	30									◎	○	
		3. 様々な心の病について、その病のメカニズム、心の病にある人の苦しみ、および予防策について理解できる	30									○	◎	
小児看護学	小児期の成長・発達の見点で、小児保健、健康の維持増進疾患の予防と子どもの権利について学ぶ	1. 子どもの成長・発達について理解している	30										◎	
		2. 子どもの疾患とその予防について理解している	40										◎	
		3. 子どもの養育環境について理解している	30										◎	
包括的ヘルスケア論	プライマリヘルスケアの概念を理解し、包括的・地域的ヘルスケアシステムの中での管理栄養士としての役割や実際のマネジメントについて学ぶ	1. プライマリヘルスケアの概念を理解する	80										◎	
		2. 地域包括ケアの特徴と管理栄養士の役割を理解する	20										◎	
ターミナルケア	ターミナル期におけるスピリチュアルな側面に焦点を当て、ホスピスケア、緩和ケア、を理解し、仏教に基づくビハラーケアを学ぶ	1. ターミナル期にある患者のホスピスケアや緩和ケアを理解している	40										◎	
		2. ターミナル期にある患者に仏教が提唱しているビハラーケアについて理解している	30										◎	
		3. 仏教に基づいた温もりのある看護に必要なコミュニケーションスキルを理解している	30										◎	
生命倫理	人の生命の尊厳、基本的権利、尊厳死などについて学び、看護職としての基本的な倫理原則、倫理理論を学ぶ	1. 人としての命の尊厳と基本的権利を看護的視点から理解できる	40										◎	
		2. 倫理原則、生命・医療倫理を理解している	30										◎	
		3. 日常生活の場の問題解決を倫理的判断にもとづいて考察できる	30										◎	
子どもと健康	保育内容「健康」の領域の理解を深め、乳幼児期の健康・運動に関する知識を深めることを目的とし、乳幼児期の心身の発達、運動能力の発達、環境と子どもの健康との関連などについても理解し、保育や援助の仕方について考える。	1. 乳幼児期の心身の発達と運動能力の発達について理解する	40	◎										
		2. 環境と子どもの健康について理解する	40		◎									
		3. 発達発達に応じた望ましい援助を考えることができる	20										◎	
医療臨床心理学	医療の領域における臨床心理士の臨床実践において必要となる基本的な考え方を身につける	1. 病を治すという医療モデルとは異なる心理臨床独自の考え方を身につける	40		◎									
		2. 心理臨床の考えを医療現場においていかに周囲と連携しつつ活かすかについて理解する	30				◎		○					
		3. 医療心理臨床の実践に必要な、精神病理学的・診断的な見方や病態水準、薬物等の知識を身につける	30				○		◎					
教育臨床心理学	スクールカウンセリングという教育分野における心理臨床活動の実際を知ることを通して教育現場の諸問題を多角的観点から分析・理解する	1. 学校における問題を学校コミュニティの立場から見立てる力を修得する	40									◎	○	
		2. 児童生徒および保護者との面接技法、教師のコンサルテーション、予防的介入など、学校現場に臨床の知恵を生かす工夫について学習する	30										◎	○
		3. 不登校、ひきこもり、摂食障害、発達障害、非行などに対する援助法を理解・会得できる	30										◎	○
生涯発達心理学	乳児期から老年期までの人間の発達を理解し、各発達段階での心理的問題について考える	1. 受胎から老年期までの発達の特徴および発達課題について理解する	40		◎									
		2. 各時期の発達に影響を与える諸要因について理解する	30			◎								
		3. 各発達段階に生じる心理的問題への対処について理解する	30										◎	
プレイセラピー・カウンセリング実習Ⅰ	心理療法の理論について、より実践に近いロールプレイ形式で体験学習することにより、さらに理解を深める	1. 心理療法の実践を身をもって体験し理解する	40									◎	○	
		2. 人の心や行動について客観的かつ論理的に解釈できる	30									◎	○	
		3. 互いのロールプレイを観察して討論することができる	30									◎	○	
プレイセラピー・カウンセリング実習Ⅱ	心理療法の理論について、より実践に近いロールプレイ形式で体験学習することにより、さらに理解を深める	1. 心理療法の実践を身をもって体験し理解する	40									◎	○	
		2. 人の心や行動について客観的かつ論理的に解釈できる	30									◎	○	
		3. 互いのロールプレイを観察して討論することができる	30									◎	○	
心理学実践演習	心理学の専門知識やスキルを、心理学的援助の実践領域(福祉・医療・教育領域など)に応用することを旨とする	1. 様々な現場で求められるサポートのあり方、他の専門職種との連携や支援ネットワークの形成、職業倫理等について理解できる	30									○	◎	
		2. 自己理解と他者理解を学び、心理学的援助に求められる細やかなコミュニケーション能力を育成する	30									◎	○	
		3. 援助者として必要な知識と姿勢を身につける	40									○	◎	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とし たときの配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
心理学実践演習 (子ども相談)	心理学の専門知識やスキルを、臨床心理学的地域援助(福祉・医療・教育領域など)に応用することを目指す。今後の保育士として求められる相談援助の意義を理解し、その知識と技術を習得する。具体的には、子どもの問題発見やその心理療法について考察し、保育現場への応用可能な知識や技術を獲得する。	1. 心理学の専門知識やスキルを援助に応用できる	30								◎	○	
		2. 相談援助の意義を理解する	40									◎	○
		3. 保育現場に応用可能な相談援助の知識や技術を獲得する	30									◎	○
心理学英語文献講読 I	心理学に関する英語文献を読むための基礎的な能力を修得できる	1. 英文読解の基礎力を高める	40			◎						○	
		2. 心理学の基礎概念を英語で読み、心理学の基礎的理解の幅を広げる	30			◎						○	
		3. 英語で心理学の知識が理解できる	30			◎						○	
心理学英語文献講読 II	心理学に関する英語文献を読むための基礎的な能力を身につけるとともに心理学への理解を深める	1. 英文読解の基礎力を高める	30			◎							
		2. 心理学の基礎文献を英語で読み、著者の意図のより深い理解を目指すことで、心理学自体に対する理解を深める	30			◎							
		3. 英語を通すことで、日本語とは異なる側面から心理学を理解できるようになる	40			◎							
心理学特別演習 I	大学院進学を希望する者を対象に、実際の試験問題に取り組みながら、臨床心理学についての理解を深め、心理臨床の実践を行う上で必要となる知識と基本的な考え方、態度を理解・習得する	1. 大学院問題の解答の方法を学ぶ	40			○						◎	
		2. 臨床心理学の専門的知識を整理し、関連するテーマについて検討し、議論を深める	30		◎								
		3. 心理臨床の実践に必要な考え方を修得する	30								○	◎	
心理学特別演習 II	大学院進学を希望する者を対象に、実際の試験問題に取り組みながら、臨床心理学についての理解を深め、心理臨床の実践を行う上で必要となる知識と基本的な考え方、態度を理解・習得する	1. 大学院問題の解答の方法を学ぶ	50			○					○	◎	
		2. 臨床心理学の専門的知識を整理し、関連するテーマについて検討し、議論を深める	25		◎						○	◎	
		3. 心理臨床の実践に必要な考え方を修得する	25								○	◎	
発達支援実習	保育所等における実習を通して、「ちよつと気になる子」の支援方法を考える	1. 子どもの認知と社会性発達を理解できる	30		◎								
		2. 「ちよつと気になる子」に対して客観的に観察し、適切に記録できる	40									◎	
		3. ケース・カンファレンスでの当該ケースの発表を経て、支援策を立案できる	30									◎	
専門職の連携(応用)	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総まとめ的な学習を行う	1. 他職種間での専門的かつ高次のコミュニケーションをはかれるようになる	40								○	◎	
		2. 事例を取り上げることで、より具体的に実践的な援助方法を理解する	30									○	◎
		3. 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す	30								○	◎	
犯罪者プロファイリング演習	犯罪行動への心理学的アプローチ	1. 犯罪捜査に関する心理学を理解できる	30		○					◎			
		2. プロファイリングに関する論文を読んで、犯人像を理解できる	40		○						◎		
		3. 犯罪捜査に関連するテーマについて検討し、議論を深める	30		○						◎		
対人スキル・コーチング演習	人を育てるための技法であるコーチングを導入し、グループワークやロールプレイなどを活用し、高度な対人スキルを育成するための実践的・体験的学習を行う	1. 自分を主張するスキルや対人葛藤に対処するスキルなど豊かなコミュニケーション力を身につける	30				○			◎			
		2. より適正な対人関係を営むための行動変容を誘う気づきと方略を提供する	30					○			◎		
		3. 他者との円滑な人間関係を構築するための対人スキルをより高度に修得する	40					○			◎		
社会的養護	児童福祉施設の体系や役割の理解や養護の実際を理解し、児童親や養護施設親を養うことをテーマとし、児童福祉施設(障害児施設も含む)のあり方、近年社会を含む家庭環境の著しい変化、それに伴い養護の基本的な部分を学び、課題等について理解する。	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ	40							○		◎	
		2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する	40								○		◎
		3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する	20								○		◎
心理学データ解析 III	量的な心理学データの分析法としての統計解析法の理論と実際について学習し、卒業論文で必要となるデータ解析を正確に実行するための技術を習得する	1. サンプルデータに対して因子分析を適切に行うことができる	40				◎						
		2. サンプルデータに対して重回帰分析を適切に行うことができる	30				◎						
		3. サンプルデータに対してクラスター分析を適切に行うことができる	30				◎						
社会調査法	社会調査は、社会およびそこに生活する人々の意識や行動の姿を明らかにすることを目的として行われる。社会調査では、そのための情報の収集と分析が行われる。本講ではまず、社会調査が何のために何故行われるか、その特徴は何か、どのような方法があるのかなどを学び、社会調査についての基本を理解する。その上で、具体的な調査の方法を学び、社会調査を実施する上で最低限必要な一通りの知識と技術を修得する	1. 様々な統計データを読み解くリテラシーを修得する	30				◎						
		2. 社会調査による情報収集の基本的知識を修得する	30				◎						
		3. 社会調査によって収集された情報の分析に関する基本的知識を修得する	40				◎						
社会調査実習 I	社会調査の基本的知識を学び、グループ実習を通じて初歩的な調査技術を習得することを目的とする。調査企画の手順と要点を説明し、授業全体での調査テーマを設定する。グループに分かれて、グループの調査テーマを設定する。グループ内で調査目的・仮説を明確化する。質問項目・回答方法の設置の仕方について説明し、グループごとに質問項目と回答方法を検討する。調査票を作成し、グループ間で相互チェックした後、印刷、製本をする。サンプリングについて理解した後、調査対象を決定する	1. 社会調査の基本的知識を習得できる	40				◎	○					
		2. 社会調査を企画できる	30				◎	○					
		3. 調査票を作成できる	30				◎	○					
社会調査実習 II	社会調査を行う基本的知識や技術を習得することを目的とする。グループに分かれて、調査を実施する。データの集計方法を説明し、調査して得られたデータをコーディングし、パソコンにデータ入力する。データ分析に用いる基本的な方法について説明し、各グループの調査目的に合った分析を決定する。パソコンを用いて分析を行い、分析結果を検討する。分析結果に基づいて報告書を作成する。グループごとに発表し、討論の後、各グループの分析結果に基づいて、調査全体としての結論を導く	1. 社会調査の基本的知識を習得できる	40				◎	○					
		2. 社会調査を実施できる	30				◎	○					
		3. 調査データを分析できる	30				◎	○					
相談援助演習 II	相談援助の基本的な技術について理解する	1. 相談援助に必要な技術について理解する	30									◎	○
		2. 相談援助が必要となる場面について理解する	30									◎	○
		3. 相談援助を必要とする対象者について理解する	40									◎	○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号								
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
相談援助演習Ⅲ	相談援助の専門職に求められる技術について理解する	1. 相談援助の現場の課題を理解する	30								◎	○
		2. 相談援助の専門職の役割と機能を理解する	30								◎	○
		3. 相談援助における他職種との連携について理解する	40								○	◎
相談援助演習Ⅳ	相談援助の現場に必要な実践力の習得を目指す	1. 事例検討会を通して個別支援を理解する	40								◎	○
		2. 事例検討会を通して集団支援を理解する	30								◎	○
		3. 事例検討会を通して地域支援を理解する	30								◎	○
相談援助演習Ⅴ	社会福祉士に必要な相談援助に係る価値・知識・技術を高める	1. 総合的かつ包括的な相談援助および具体的な問題解決の手法を体系的に理解する	30								◎	○
		2. 社会資源の開発やネットワークの構築の手法を習得する	30								○	◎
		3. 社会福祉士に必要な相談援助に関する能力を総合的に習得する	40								○	◎
精神保健の課題と支援Ⅰ	学童期・思春期・青年期・成人期・老年期別のライフサイクルによる精神保健・精神障害者対策・老人性痴呆症対策・地域精神保健対策などの精神保健における個別課題としての精神障害者対策、家庭・学校・職場・地域における精神保健活動の実践、地域精神保健と地域保健等を学ぶ	1. ライフサイクルと精神保健の関係について理解する	30								○	◎
		2. 地域における精神保健の専門機関について理解する	30								○	◎
		3. 精神保健に関わる専門職の役割について理解する	40								○	◎
精神保健の課題と支援Ⅱ	学童期・思春期・青年期・成人期・老年期別のライフサイクルによる精神保健・精神障害者対策・老人性痴呆症対策・地域精神保健対策などの精神保健における個別課題としての精神障害者対策、家庭・学校・職場・地域における精神保健活動の実践、地域精神保健と地域保健等を学ぶ	1. 専門機関・専門職の連携について理解する	30								○	◎
		2. 自ら地域の精神保健現状について調査し、その課題をまとめる	30								○	◎
		3. 今後の精神保健の在り方について理解する	40								○	◎
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	精神障害者がおかれてきた歴史的状況を踏まえ、精神保健福祉相談援助活動の意義、精神保健福祉士の価値や倫理・役割について理解を深める。また、社会福祉士と協働活動の意義、内容について理解を深める。精神保健福祉士の意義、精神保健福祉士の役割、相談援助の意義・目的、社会福祉士の役割等についても理解する	1. 精神保健福祉における相談援助の意義と効果を理解する	30								○	◎
		2. 精神障害者の多様な生活様式に対する理解と支援のあり方を理解する	30								○	◎
		3. 社会に存在する精神保健福祉援助に関わる機関・専門職を理解する	40								○	◎
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神障害者の人権や療養生活・地域生活を行う上でのニーズを踏まえ、精神保健福祉相談援助活動における精神保健福祉士の価値や倫理、相談援助活動の内容や展開過程、多職種間連携の意義等についての理解を深める	1. 精神保健福祉における現状の課題とその解決のために必要な支援について理解する	30								○	◎
		2. 精神保健福祉援助場面における支援における倫理について理解する	30								○	◎
		3. 精神保健福祉援助場面における他職種連携について理解する	40								○	◎
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	精神科リハビリテーションとは何か、その構成と精神保健福祉士の役割等について学ぶ	1. 精神科リハビリテーションの歴史、経緯について理解する	30								○	◎
		2. 現状の精神科リハビリテーションについて理解する	30								○	◎
		3. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割について理解する	40								○	◎
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	社会復帰施設・精神保健福祉センターなどの精神科リハビリテーション施設、プロセスとしてのリハビリテーション計画やアプローチの方法、医療機関におけるリハビリテーション、精神保健福祉士が行うリハビリテーション、総合化に向けた地域リハビリテーションや職業リハビリテーションなどの現在の色々な取り組み、精神保健福祉施設等を学びそして精神科リハビリテーションの今後の方向性も考える	1. 精神保健福祉専門機関におけるリハビリテーションの意義について理解する	30								○	◎
		2. 各専門施設でのリハビリテーションの実践について理解する	30								○	◎
		3. 今後の精神科リハビリテーションの方向性について理解する	40								○	◎
福祉行政と福祉計画	福祉の行政について、福祉計画の意義や目的、方法、留意点について理解できる	1. 福祉行政の実施体制(組織及び団体の役割)を理解できる	40								○	◎
		2. 福祉の財源について理解できる	30								○	◎
		4. 福祉行政における専門職の役割について理解できる	30								○	◎
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	精神科医療・福祉の場で精神障害者や家族、地域住民の関わりの中で、「利用者主体」「社会生活自立支援」を直接・間接援助技術の実践の中で実現することを知り、多様な生活をもつ当事者のニーズ・尊厳を尊重できる職業倫理を自覚させ、さらにチームアプローチや生活支援の視点から精神保健福祉士としての専門援助技術について理解をする	1. 精神保健福祉における対人援助の必要性について理解する	30								○	◎
		2. 個別援助、集団援助の法則と精神保健福祉援助における活用について理解する	30								○	◎
		3. 対人援助場面における価値と倫理について理解する	40								○	◎
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	精神障害者に対する援助方法や実践の基本をまとめ、精神保健福祉士として理解すべき個別援助技術(ケースワーク)・集団援助技術(グループワーク)・地域援助技術(コミュニティワーク)の概念と基本的性格を習得し、具体的展開が行えるように具体的事例を通して理解する	1. 精神保健福祉援助における社会資源について理解する	30								○	◎
		2. 精神保健福祉援助における専門職連携について理解する	30								○	◎
		3. 精神保健福祉援助におけるケアマネジメントについて理解する	40								○	◎
精神保健福祉に関する制度論とサービスⅠ	精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証しつつ、病院医療から地域医療に転換すべき積み残されてきた福祉課題を検討する	1. わが国における精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証する	30								○	◎
		2. 精神疾患に伴う精神科医療の現状を把握するために、精神保健福祉法における医療システムを検討する	30								○	◎
		3. 重い障害を有した入院患者(統合失調症を中心)とした退院促進の様々な取り組みの展開過程を通して検討する	40								○	◎
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証しつつ、病院医療から地域医療に転換すべき積み残されてきた福祉課題を検討する	1. ストレス社会における精神疾患の病態の多様化に伴い、それらが多方面にわたって急増している医療状況を理解する	30								○	◎
		2. 精神医療と精神保健の体制における福祉課題を考える	40								○	◎
		3. 小児・思春期から老年期までの様々なライフサイクルの段階でのメンタルヘルスに伴う福祉課題を理解する	30								○	◎
精神障害者の生活支援システム	精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証しつつ、病院医療から地域医療に転換すべき積み残されてきた福祉課題を検討する	1. ストレス社会における精神疾患の病態の多様化に伴い、それらが多方面にわたって急増している医療状況を理解する	30								○	◎
		2. 精神医療と精神保健の体制における福祉課題を考える	40								○	◎
		3. 小児・思春期から老年期までの様々なライフサイクルの段階でのメンタルヘルスに伴う福祉課題を理解する	30								○	◎
保育原理	保育所は保育に欠ける乳幼児を保育することを目的とする児童福祉施設であり、その主たる目的は、入所している子どもに対して最善の利益を考慮して保育を行うことである。本講義は、子どもの発達と理解と、保育所保育の本質を理解することを目的とする	1. 保育の意義について理解する	40								○	◎
		2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する	30								○	◎
		3. 保育の内容と方法の基本について理解する	30								○	◎

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号											
				凡例 ○:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
教育原理		1. 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する 3. 教育の制度について理解する	40										○	○	
			30											○	○
			30											○	○
保育者論	各保育施設の保育指針となっている「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」を手がかりとして、法制上求められている保育者の役割や資質ならびに保育施設の役割などを理解する。また、近代の保育の先達たちの幼児教育思想や実践などを通して自分の理想とする保育者像を描かせる。	1. 保育者の役割と倫理について理解する 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する 3. 保育士の専門性について理解する	40										○	○	
			30										○	○	
			30										○	○	
保健医療保育概論 I	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することを目的とする。子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解し、子どもの疾病と予防法および適切な対応について学ぶ。また、保育環境の整備や衛生管理・安全管理について考える。	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する	30											○	
			40											○	
			30											○	
保健医療保育概論 II	子どもの精神保健とその課題等について理解することを目的とする。子どもの生活環境と精神保健との関係や、子どもの心の健康とその課題について理解する。施設等において子どもの心身の健康を促進するための実施体制について考える。なお、その際小児病棟・発達障がい児保育施設などについて体験的に学習し、その現状と課題点及び解決方法を社会福祉・心理・医療など多角的視点から考察する。	1. 子どもの精神保健とその課題等について理解する 2. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する 3. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する	30											○	
			40											○	
			30											○	
保育課程論	本科目は、保育における理論と実践をつなぐものであり、幼児教育における教育課程の意義と役割を明らかにするとともに、教育課程編成の留意事項などの理解をとおして、幼児の充実した園生活をつくり出すための教育課程のあり方について考察する。	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する 2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する	30											○	
			30											○	
			40											○	
心理学基礎演習 I	大学での学び環境に適応し、学びに必要な基本的な方法や技術を習得する	1. 建学の精神を理解し、大学での学び環境に適応する 2. 個人や小グループで資料を調べる 3. 調べた資料に基づき、要点を発表する	40						○						
			30											○	
			30											○	
心理学基礎演習 II	自分史を作り、自己理解を深め将来像を設計する	1. 本や新聞を読みこなす力をつける 2. 発表とディスカッションを通じて、柔軟な思考力やコミュニケーション能力を高める 3. 自分史に基づき将来像を設計する	30											○	
			40											○	
			30											○	
心理学基礎演習 III	本授業の目的は、心理学の専門的知識の習得だけでなく、まずは専門書や論文に触れることで、受験生が今後の学習の質を向上させるきっかけを提供することである。これらを通じて心理学の視点から自己と他者理解を深める機会とする	1. 心理学の専門的な文献を読解する力を身につける 2. 発表に関する学生同士のディスカッションにより、心理学の知識を深める力を得る 3. 教員と学生の双方向的なやり取りを通し、心理学の理解をより深く確かなものとする	40											○	
			30											○	
			30											○	
心理学基礎演習 IV	本授業の目的は、心理学の専門的知識の習得だけでなく、まずは専門書や論文に触れることで、受験生が今後の学習の質を向上させるきっかけを提供することである。これらを通じて心理学の視点から自己と他者理解を深める機会とする	1. 心理学の専門的な文献を読解する力を身につける 2. 学生同士のディスカッションや質疑を深めることを通し、心理学の生きた知識を得る 3. 教員と学生の双方向的なやり取りを通し、心理学の理解をより深く確かなものとする	30											○	
			40											○	
			30											○	
心理学専門演習 I	臨床心理学・発達心理学・社会心理学の専門的知識と方法を習得する	1. 図書館やデータベースを利用して専門的文献を検索し、収集できる 2. 収集した文献の内容を理解し、発表資料に適切にまとめることができる 3. 発表資料に基づいて、学習内容を発表し、討論できる	30												
			30												
			40												
心理学専門演習 II	臨床心理学・発達心理学・社会心理学の専門的知識と方法を習得する	1. 図書館やデータベースを利用して専門的文献を検索し、収集できる 2. 収集した文献の内容を理解し、発表資料に適切にまとめることができる 3. 発表資料に基づいて、学習内容を発表し、討論できる	30												
			30												
			40												
心理学専門演習 III	臨床心理学・発達心理学・社会心理学の専門的知識と方法を習得する	1. 研究テーマに関する文献を読解できる 2. 読破した複数の文献の関連性を検討し、先行研究の流れを理解できる 3. 研究計画を立案できる	30												
			30												
			40												
心理学専門演習 IV	臨床心理学・発達心理学・社会心理学の専門的知識と方法を習得する	1. 図書館やデータベースを利用して専門的文献を検索し、収集できる 2. 収集した文献の内容を理解し、発表資料に適切にまとめることができる 3. 発表資料に基づいて、学習内容を発表し、討論できる	30												
			30												
			40												
卒業研究	先行研究を基礎として自分のテーマに基づいて課題を発見し、心理学的観点において考察することができる	1. 課題発見能力、論理的思考力、洞察力、説得力のある表現力、自説を論理的に述べあげていく能力、を身につける 2. 積極的に自分のテーマと向き合い、推敲を重ねて文章表現と構成を工夫する 3. 自分の研究テーマについて心理学的観点から考察できる	30		○										
			30		○										
			40		○										
卒業論文	自分の選択したテーマに適したアプローチに基づいてデータを収集して実証的研究を行う。または幅広いレビューを元にして新しい展望を得て文献研究としてまとめる	1. 課題発見能力、論理的思考力、洞察力、説得力のある表現力、自説を論理的に述べあげていく能力、を身につける 2. 実証されたデータに基づき考察を行う 3. 独自の視点の開拓や実証性の高い知見を発見できる	30												
			30		○										
			40		○										
コンピュータ活用A	印刷を目的とした画像処理の基礎知識と技術修得	1. コンピュータグラフィックの基礎知識を習得する 2. 用途に応じた画像形式を理解する 3. 画像と文字や図形を合成しポストカードやポスターを制作する	40											○	
			30											○	
			30											○	
コンピュータ活用B	インターネット公開を目的とした画像処理の基礎知識と技術修得	1. 情報発信に必要な知識と技術を理解する 2. 画像と文字や図形を合成しWeb用素材を制作する 3. アニメーションを企画制作する	40											○	
			30											○	
			30											○	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
地域福祉Ⅰ	地域福祉の基本的枠組みと概要を理解する	1. 地域・コミュニティの特性とその意味を理解する	30								○	◎	
		2. 地域福祉の変遷と現状について理解する	30									○	◎
		3. 地域福祉における相談援助の役割を理解する	40									○	◎
地域福祉Ⅱ	地域福祉の課題と解決のための実践手法を理解する	1. 地域福祉活動の担い手について理解する	30								○	◎	
		2. 地域福祉活動に求められるネットワークについて理解する	30									○	◎
		3. 地域福祉の課題に対する解決策に向けた知識と技術を理解する	40									○	◎
社会保障Ⅰ	日本の社会保障制度と年金保険・医療保険の概略を理解できる	1. 日本の社会保障制度の概略を理解できる	40								○	◎	
		2. 年金保険と医療保険の仕組みを説明できる	40									○	◎
		3. 外国の制度と比較して、問題点を指摘できる	20									○	◎
社会保障Ⅱ	日本の社会保障制度としての雇用保険・労災保険・介護保険を理解できる	1. 雇用保険・労災保険の制度を理解できる	40								○	◎	
		2. 介護保険と高齢者の生活を説明できる	40									○	◎
		3. 外国の制度と比較して問題点を指摘できる	20									○	◎
生活保護制度	公的扶助としての生活保護制度の仕組みと問題を理解できる	1. 日本の社会保障制度の中核としての生活保護制度の重要性を認識できる	40								○	◎	
		2. 生活保護制度の概要を説明できる	40									○	◎
		3. 外国の制度と比較して問題点を指摘できる	20									○	◎
保健医療	医療史の歴史、現在の医療技術と医療システムを知り、リハビリテーション医療、社会福祉との関連を理解してゆくことを目標とする	1. 医療、保険、社会福祉の倫理を知り、専門職としての心構えを理解する	40								○	◎	
		2. 現代の医療体系や医療保険福祉制度とリハビリテーション医療との関係を理解する	30									○	◎
		3. リハビリテーション医療と密接に関係する特定疾患や生活習慣病の概要を知ることが出来る	30									○	◎
権利擁護と成年後見制度	相談援助実践における法との関わりを学び、成年後見制度と権利擁護活動の実際を理解する。相談援助実践における成年後見制度と法(憲法、民法、行政法)との関わりについて理解する。意思決定が困難な者に対する権利擁護活動の実際について理解を深める	1. 相談援助職として必要な成年後見制度、日常生活自立支援事業の知識を身につける	40								○	◎	
		2. 権利擁護活動の実際について理解する	20									○	◎
		3. 憲法、民法、行政法といった社会福祉に関する法の理解を深める	20									○	◎
障害者福祉	障害者福祉サービスのこれまでの歴史、社会背景を通じて、現状の障害者福祉の意義と課題について習得できるようにする	1. わが国の障害者に関する歴史と施策に関して理解し、必要な行動がとれる	30								○	◎	
		2. 障害者に対する福祉サービスの種類、目的、その効果について理解し専門職を目指す者として活用できる	40									○	◎
		3. 障害者福祉サービスと他の福祉サービスと比較し、総合的に理解できる	30									○	◎
精神保健福祉援助演習Ⅰ	精神障害者のおかれている現状を理解したうえで、精神保健福祉士の役割とその使命について学び、援助技術の習得を目的とする	1. 精神保健福祉場面における対人援助の理論について理解する	30								○	◎	
		2. 精神保健福祉援助場面における技術を習得する	30									○	◎
		3. 精神保健福祉援助場面において適切な援助関係が構築できる	40									○	◎
精神保健福祉援助演習Ⅱ	精神障害者のおかれている現状を理解したうえで、精神保健福祉士の役割とその使命について学び、援助技術の習得を目的とする	1. Iで習得した知識・技術を活用して、具体的事例に対応する	30								○	◎	
		2. 臨床場面における援助事例を理解する	30									○	◎
		3. 精神保健福祉士としての援助場面における価値、倫理をまとめる	40									○	◎
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解、学習する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実習での体験、援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てて考察していく能力を涵養する	1. 実習施設の機能と精神保健福祉援助における役割について理解する	30								○	◎	
		2. 対人援助場面における対応に必要な知識・技術の確認	30									○	◎
		3. 実習施設について、具体的資料などから理解を深める	40									○	◎
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解、学習する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実習での体験、援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てて考察していく能力を涵養する	1. 実習施設の機能と精神保健福祉援助における役割について理解する	30								○	◎	
		2. 対人援助場面における対応に必要な知識・技術の確認	30									○	◎
		3. 実習施設について、具体的資料などから理解を深める	40									○	◎
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解、学習する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実習での体験、援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てて考察する能力を高める	1. 実習施設の機能と精神保健福祉援助における役割について理解する	30								○	◎	
		2. 対人援助場面における対応に必要な知識・技術の確認	30									○	◎
		3. 実習施設について、具体的資料などから理解を深める	40									○	◎
精神保健福祉援助実習A	精神保健福祉士が知識と技術を生かして、専門職として役割を果たすには何が重要なかを現場から学び、さら現場精神保健福祉士として必要な知識および技術・関連知識を、現場体験を通して具体的に理解を深め習得することを目的とする	1. 実習先の利用者や職員との基本的な関係を築く	30								○	◎	
		2. 実習先の利用者の課題を理解する	30									○	◎
		3. 実習先の社会福祉士の役割を理解する	40									○	◎
精神保健福祉援助実習B	精神保健福祉士が知識と技術を生かして、専門職として役割を果たすには何が重要なかを現場から学び、さら現場精神保健福祉士として必要な知識および技術・関連知識を、現場体験を通して具体的に理解を深め習得することを目的とする	1. 実習先の利用者に対して個別支援計画を策定する	30								○	◎	
		2. 実習先での他職種間との連携、地域との関係について理解する	30									○	◎
		3. 実習計画書にあげた実習目的を達成する	40									○	◎
子どもの食と栄養	将来にわたって健全な生活を営むためには、小児期の食生活は、成長発育のみならず心の健康にも重要である。そのためには、小児の特性や子どもを取り巻く社会状況を理解し、人体、栄養、食品、食生活等の視点から、子どもの健康の維持・増進に貢献するための食事指導に必要な知識、技術を学ぶ。	1. 健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ	30								○	◎	
		2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める	40									○	◎
		3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する	30									○	◎

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		
相談援助演習Ⅰ	相談援助の基本的な技術の習得を目指す	1. 自己理解に努める	30									○	◎	
		2. 他者理解に努める	30										○	◎
		3. 基本的なコミュニケーションスキルの習得を目指す	40										○	◎
保育内容総論	保育内容の各領域を総合的に理解し、こどもの見かた、保育の方法について総合的に捉える視点を養うことを目的としている。具体的な内容は、保育の内容・方法、保育内容の歴史の変遷、こどもの発達と保育内容、子どもの活動と保育環境などである。	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する	30									○	◎	
		2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する	30										○	◎
		3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する	40										○	◎
乳児保育演習	乳児保育の理論、保育ニーズと乳児保育の考え方の基本、乳児に対する保育意の発達、保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ、0歳児の発達と保育、1歳児の発達と保育、2歳児の発達と保育、乳児保育の基本的視点などの内容を理解する。	1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ	30									○	◎	
		2. 保育所、乳児院などにおける乳児保育の現状と課題について理解する	30										○	◎
		3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する	40										○	◎
障がい児保育	障害を持つこどもについて理解し、適切な配慮について学び、障害児保育を支える理念の紹介、障害の種類とその特徴、各障害に対する保育上の配慮、障害児保育の現状とその課題、障害児とその家族に対する支援などの内容を理解する。	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する	30									○	◎	
		2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ	30										○	◎
		3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりなかで育ち合う保育実践について理解を深める	40										○	◎
社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解する。施設養護及び他の社会的養護の実態について学び、個々の児童に応じた支援計画の作成や、日常生活の支援・治療的支援・自立支援等の内容について検討する。	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する	30									○	◎	
		2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ	30										○	◎
		3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりなかで育ち合う保育実践について理解を深める	40										○	◎
子どもの体育	幼児期から児童期の子どもの適切な運動を行うことは身体的発達のみならず、知的・情緒的・社会的発達を促すうえで必要不可欠なことから、これら子どもの運動能力の発達に適切な運動課題を理解し、実践できる力を身に付ける。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する	30									○	◎	
		2. 身体表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する	30										○	◎
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する	40										○	◎
音楽療法	音楽表現に関する基本的な知識や技術について学ぶ。そのうえで、乳幼児期の子どもの持つ生理的・心理的効果を利用し、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容などに向けて、意識的に音楽を活用する知識と技能を身に付ける。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する	30									○	◎	
		2. 音楽表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する	30										○	◎
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する	40										○	◎
図工	造形表現に関する基本的な知識や技能を身に付け、それらに関するさまざまな活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得することを目指す。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する	30									○	◎	
		2. 造形表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する	30										○	◎
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する	40										○	◎
レクリエーション指導法	保育活動・教育活動の中で、各種行事の中でのクラスや異年齢の子どもたちのレクリエーション活動は、人間関係を築く上で重要な活動である。レクリエーション活動の指導に関する理論と実際について、様々な場面で具体的な活動の実践とレクリエーション活動の意義・計画の立て方などについて講義する。	1. レクリエーション活動の意義と目的を理解する	30									○	◎	
		2. レクリエーション指導に関する理論と実践を学ぶ	40										○	◎
		3. レクリエーション活動の具体的な計画策定について学ぶ	30										○	◎
保健医療保育演習	子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画及び評価について学ぶことを目的とする。子どもの健康や発達に資する保健活動な環境について考え、子どもの疾病と適切な対応や救急時の対応や事故防止・安全管理について具体的に学び、実践的技術を習得する。	1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ	30									○	◎	
		2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える	30										○	◎
		3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する具体的に学ぶ	40										○	◎
保育実習指導Ⅰ	保育実習の意義と形態について理解を深め、保育実習Ⅰに臨むにあたっての各自の課題を明確にし、実習記録の書き方や指導計画の立て方を学び、実習に向けての準備を行う。さらに、保育実習の意義と形態、保育実習Ⅰの課題、実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解する	1. 保育実習の意義・目的を理解する	30									○	◎	
		2. 保育の内容を理解し、自らの課題を明確にする	50										○	◎
		3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する	20										○	◎
保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱに向けての事前指導及び事後指導を行う。保育実習Ⅰでの各自の課題を踏まえ、保育実習Ⅱの目標を明確にし、指導計画作成などの施設での保育実践に必要な知識、技能を身に付ける。また、実習を振り返り、報告会や事後面談を通して保育実践のための自己の目標を明確にする。	1. 実習や既習の教科の内容やその関連性をふまえ、保育実践力を培う	30									○	◎	
		2. 保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ	30										○	◎
		3. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする	40										○	◎
保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲに向けての事前指導及び事後指導を行う。保育実習Ⅱでの各自の課題を踏まえ、保育実習Ⅲの目標を明確にし、指導計画作成などの施設での保育実践に必要な知識、技能を身に付ける。また、実習を振り返り、報告会や事後面談を通して保育実践のための自己の目標を明確にする。	1. 実習や既習の教科の内容やその関連性をふまえ、保育実践力を培う	30									○	◎	
		2. 保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ	40										○	◎
		3. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする	30										○	◎
保育実習Ⅰ(保育所)	保育所での実習(2週間/80時間)を通して、保育所の役割、保育士の仕事を理解するとともに、子どもの発達にそった援助の方法を学ぶ。また、乳幼児と実際にかかわることにより乳幼児の発達について理解するとともに、保育士の役割について具体的に学ぶ。	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する	30									○	◎	
		2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める	50										○	◎
		3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ	20										○	◎

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とし たときの配分	ディプロマポリシーの項目番号											
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
保育実習Ⅰ(施設)	障害児または障害者施設での実習(2週間/80時間)を通して、施設における保育士の仕事や利用者への援助の在り方について学び、障害児(者)への理解を深めるとともに、施設の機能と施設保育士の職務について理解する。	1. 児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する	30									○	◎		
		2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める	50										○	◎	
		3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ	20										○	◎	
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰでの各自の課題を踏まえ、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。さらに、保育所・保育士の役割について理解を深め、保育実践のための必要な知識・技能を身につけ、さまざまな保育ニーズについての理解を深めることを目標とする。	1. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める	30									○	◎		
		2. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する	30										○	◎	
		3. 保育士としての自己の課題を明確化する	40										○	◎	
保育実習Ⅲ	児童福祉施設等での実習(2週間/80時間)を通して、障がい児(者)への理解を深めるとともに、施設の機能と施設保育士の職務について学ぶことを目的とする。実習施設の機能と利用者の生活の流れを理解し、施設保育士の役割について学び、利用者のニーズをくみとり、適切な援助を行う。	1. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う	30										○	◎	
		2. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する	30											○	◎
		3. 保育士としての自己の課題を明確化する	40											○	◎